

「万葉古代学研究所彙報」

平成十七年度

二月二三日 奈良県立万葉文化館友の会と共催の「古事記をよむ」で、松田信彦主任研究員（以下、研究員と略す）が

「神武天皇東征の物語②」を講義。

二月 四日 東京都千代田区の日本教育会館で行われた全国歴史研究会新年会において、松尾光副所長が「日本古代史の最前線―天智と天武―」を特別講演。

三月 六日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦研究員が「皇后イスケヨリヒメ」を講義。

三月 四日・五日 ボランティア新年度研修で、松田信彦研究員・井上さやか主任研究員（以下、研究員と略す）が講師を務める。

三月一八日 朝日カルチャーセンター・横浜の「稲とコメの古代史」の第五講で、松尾光副所長が「古代農民の農事暦」を講演。

三月二四日 「万葉古代学研究所年報」四号を発行。

三月二九日 全国歴史研究会の「万葉古代塾」の第五講として、松尾光副所長が「吉野讃歌と持統行幸―不比等との出会い―」を講演。

平成十八年度

四月二二日―二三日 全国歴史研究会の〈旅行会〉「吉野と大宇陀の旅」の実施にあたり、松尾光副所長が添乗講師を務める。

四月二二日―二四日 第三回委託共同研究「万葉集の成立基盤としてのヤマトの信仰的世界観の総合的研究―二上山周辺地域を視座として―」（代表・大石泰夫盛岡大学教授）の実地調査および第一回共同研究会を開催。

四月二四日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「万葉集の自然①柿本人麻呂」を講義。

五月二二日―一四日 第三回委託共同研究「万葉集の成立基盤としてのヤマトの信仰的世界観の総合的研究―二上山周辺地域を視座として―」（代表・大石泰夫盛岡大学教授）の実地調査および第二回共同研究会を開催。

五月二三日 国際奈良学セミナーハウス主催の奈良学サロンの第一回講座で、松田信彦研究員が「柿本人麻呂と吉野」と題して講演。

五月二九日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「万葉集の自然②高市黒人」を講義。

六月一日 美夫君志会例会で、井上研究員が「詠物歌と自然―

赤人の短歌から」を研究発表。

六月二六日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「万葉集の自然③山部赤人」を講義。

七月 一日 第十七回万葉古代学研究所講座として、寺川眞知夫所長が「憶良の仏教的表現」を講演。参加者は、三六名。

国際奈良学セミナーハウス主催の奈良学サロンの第三回講座で、松田信彦研究員が「狭野茅上娘子の恋」と題して講演。

七月 八日 第十八回万葉古代学研究所講座として、松田信彦主任研究員が「欠史八代の虚と実」を講演。参加者は、三九名。

七月一〇日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「万葉集の自然④大伴家持」を講義。

七月一五日 第十九回万葉古代学研究所講座として、井上さやか主任研究員が「万葉集の滑稽歌」を講演。参加者は、四〇名。

七月一六日 第二十回万葉古代学研究所講座として、上野誠副所長が「万葉びとの右手・左手」を講演。参加者は、六三名。

七月一七日 万葉古代学研究所主宰第二回共同研究「古代儀礼と

万葉集」の第七回共同研究会を開催。共同研究員は、寺川眞知夫所長・上野誠副所長・松尾光副所長兼総括研究員・松田信彦主任研究員・井上さやか主任研究員・鎌田東二京都造形芸術大学教授・嶋田義仁名古屋大学大学院教授・高橋孝信東京大学教授・辰巳正明國學院大学教授。研究会は、寺川眞知夫所長が「高市皇子挽歌誦詠の場と儀式―憶良の日本挽歌を参考に―」、井上さやか研究員が「万葉集」における挽歌表現」を発表。

七月二三日 第二十一回万葉古代学研究所講座として、松尾光副所長が「壬申の乱と大伴氏」を講演。参加者は六九名。夏休み親子万葉教室の講師を、井上さやか研究員が務める。

七月二三日 夏休み親子万葉教室の講師を、松田信彦研究員が務める。

七月三〇日 大阪・生国魂神社で行われた「平成十八年度國學院大學伝統文化に学ぶ講座」で、松田信彦研究員が「恋のうた、いまむかし（万葉時代の恋）」を講演。

八月 五日・六日 万葉古代学研究所主宰第二回共同研究「古代儀礼と万葉集」の第八回・第九回共同研究会を開催。

松田信彦研究員が「日本書紀の葬送儀礼から見た日

本古代の葬送儀礼」、鎌田東二氏（京都造形芸術大学教授）が「日本神話および和歌・歌謡における死と葬送観」、辰巳正明氏（國學院大學教授）が「橿原神宮創建と高天の原神学」、辺見葉子氏（慶応義塾大学助教授）が「中世英文学およびケルト語文学に見る死生観と葬送儀礼」を発表。

八月二二日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「万葉集の自然⑤その他の歌人」を講義。

八月二三日～二五日 第三回委託共同研究「万葉集の成立基盤としてのヤマトの信仰的世界観の総合的研究―二上山周辺地域を視座として―」の実地調査および第三回共同研究会を開催。

八月二四日 奈良交通主催のバスツアー「講師と訪れる万葉の故地とホテイアオイの群落」の添乗講師を、松田信彦研究員が務める。

八月二六日～二八日 奈良女子大学と共催で、第五回万葉古代学研究所夏期セミナー／奈良女子大学二十一世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」（若手研究者支援プログラム）として「古代日本の散文をめぐる」を実施。第一講は松尾良樹氏（奈良女子大学教授）「日本靈異記の文学と訓詁」、第二講は寺

川真知夫氏（万葉古代学研究所所長）「日本靈異記研究の課題」、第三講は毛利正守氏（大阪市立大学教授）「日本書紀の表現をめぐる」、第四講は山口佳紀氏（聖心女子大学教授）「古事記の表現をめぐる」。参加者六六名。

八月二七日 夏休み親子万葉教室の講師を、松田信彦研究員が務める。

九月二日 国際奈良学セミナーハウス主催の奈良学サロンの第五回講座で、井上さやか研究員が「山部赤人が描いた奈良」と題して講演。

九月八日～十二日 井上研究員が東アジア比較文化国際会議中国大会（上海・復旦大学）に出張、研究発表（十日）

九月二一日 友の会共催の「木簡をよむ」で、松尾光副所長が「犬と木簡」を講義。

九月三〇日 松田信彦主任研究員が退任。鹿児島工業高等専門学校 校助教授として転出。

一〇月一日 万葉古代学研究所主宰第二回共同研究「古代儀礼と万葉集」の第一〇回共同研究会を開催。松尾光副所長が「挽歌の作者と対象」、藤井麻湖氏（愛知淑徳大学講師）が「モンゴルの葬送儀礼―モンゴルにおける死生観―」を発表。

西地貴子氏が万葉古代学研究所研究員に就任。

- 一〇月 八日 第二回委託共同研究「平城万葉の形成とその基盤に関する総合的研究」(研究代表者・梶川信行日本大学教授)の研究成果発表として、第三回万葉古代学研究所共同研究公開シンポジウム「万葉集と平城京」を開催。第一講は梶川信行氏(日本大学教授)「阿騎野と宇智野―『万葉集』のコスモロジー―」、第二講は藤原茂樹氏(慶応義塾大学教授)「平城京の芸能―流転する歌謡・催馬楽―」、第三講は藏中しのぶ氏(大東文化大学教授)「平城京の仏教―唐からもたらされた文学の場と体系―」、第四講は木本好信氏(甲子園短期大学教授)「平城京の政界―政治家大伴家持を中心として―」、第五講は中村順昭氏(日本大学教授)「越中の在地社会―越中万葉の形成基盤―」。コメントーターは梶裕史氏(法政大学助教授)・野口恵子氏(日本大学助教授)・西地貴子氏(福岡女学院大学非常勤講師)。参加者は、九六名。
- 一〇月一〇日 近畿地区教育研究所連盟教科等部会A分科会で、松尾光副所長が「万葉集と古代史」と題して講演。
- 一〇月一六日 友の会共催の「木簡をよむ」で、松尾光副所長が「楠と木簡」を講義。

一〇月三十一日 井上研究員が尼崎市中央公民館で、「名所図絵にみる江戸・万葉紀行①」を講演。

一二月 四日 国際奈良学セミナーハウス主催の奈良学サロンの第七回講座で、井上さやか研究員が「大伴家持の望郷」と題して講演。

一二月二日 井上研究員が今井まちなみ交流センター華菟で、「万葉集と藤原京」を講演。

一二月四日 井上研究員が尼崎市中央公民館で、「名所図絵にみる江戸・万葉紀行②」を講演。

一二月九日 井上研究員が吉野町で、公開シンポジウム「徹底討論・柿本人麻呂と吉野」に参加。「人麻呂の継承者たち」を講演。

一二月二〇日 友の会共催の「古事記をよむ」で、寺川真知夫所長が「欠史八代」を講義。

一二月八日 友の会共催の「古事記をよむ」で、寺川真知夫所長が「崇神天皇①三輪山伝説」を講義。

一二月一〇日 第四十九回友の会講座で、孫立春海外研修員が「『万葉集』と『芸文類聚』における詠雪詩歌の比較」、西地貴子研究員が「虫麻呂のうたう霍公鳥」と題して講演。

一二月二二日 井上研究員が奈良コンベンションビューロー主催の

研修講座で、「万葉よもやま話」を講演。

二月二六日 第三回委託共同研究「万葉集の成立基盤としてのヤマトの信仰的世界観の総合的研究―二上山周辺地域を視座として―」の第四回共同研究会を開催。

一月 六日 国際奈良学セミナーハウス主催の奈良学サロンの第九回講座で、松尾光副所長が「大和三山の男女」と題して講演。

一月 七日・八日 万葉古代学研究所主宰第二回共同研究「古代儀礼と万葉集」の第一一回・一二回共同研究会を開催。

上野誠氏副所長が「白い喪服の古代学」、高橋孝信氏（東京大学教授）が「タミル古代文学のジャンル分け―*puram*は『英雄歌』か『雑歌』―」を発表。

一月二二日 田原本町生涯学習課主催・郷土の学習教室（於・田原本青垣生涯学習センター）で、松尾光副所長が「誰が入鹿を倒したか」と題して講演。

一月二五日 友の会共催の「古事記をよむ」で、寺川眞知夫所長が「崇神天皇②建波邇安王の叛逆」を講義。

一月二八日 井上研究員が美夫君志会一月研究発表会で、「『万葉集』における赤人歌の位置―巻十七の詠春鶯歌から―」を発表。

◆専任研究員のおもな業績（平成十八年二月～平成十九年一月）

松尾光

〔共著〕

『日本神話と古代天皇家の謎』（リイド社刊。「聖帝・仁徳天皇の
実在性」を収載）

〔研究論文〕

○「唐津市中原遺跡出土の成人木簡について」（『万葉古代学研究
所年報』四号）、平成十八年三月。

〔その他〕

○「崇仏排仏戦争 蘇我と物部」（『月刊歴史読本』五十一巻五号）、
平成十八年三月。

○「歴代天皇・皇后総覧」（『別冊歴史読本』三十一巻七号）、平
成十八年三月。天皇五名・皇后妃七名を執筆。

○「古代史の謎 十大論争探究講座」（『月刊歴史読本』五十一巻
十号）、平成十八年五月。

○「七世紀史と『古事記』（『月刊歴史読本』五十一巻十二号）、
平成十八年九月。

○「倭姫王をめぐる二つの謎」（『磯』二四〇号）、平成十八年十
月。

○「万葉歌の魅力をさぐる⑧／ものな思ほし」、平成十八年十月。

○「産経新聞」朝刊／奈良版「万葉集と遊ぶ」平成十八年二月～
十九年一月。

松田 信彦（平成十八年九月三十日退任）

〔研究論文〕

○「推古紀二十年正月条の置酒の宴と上寿歌に関する二、三の疑
い」（『万葉古代学研究所年報』四号）、平成十八年三月

〔研究発表〕

○日本書紀講読「巻四『安寧天皇・懿徳天皇・孝昭天皇』（古事
記学会分科会）、平成十八年五月

○日本書紀講読「巻四『孝安天皇・孝霊天皇』（古事記学会分科
会）、平成十九年一月

〔その他〕

○「産経新聞」朝刊／奈良版「万葉集と遊ぶ」、平成十八年二月
から平成十九年一月

○「分科会ノート・日本書紀」（『古事記年報』四十九）、平成十
九年一月

井上さやか

〔研究論文〕

○「景物としての『鳴く鹿』——詠物歌と物色の倭製——」（『万葉古

代学研究所年報「四号」、平成十八年三月。

○「文学中的象征―从“黄莺”的日中比较出发」（「東亜文化的継承与揚棄」）、平成十九年一月。

〔研究発表〕

○「詠物歌と自然―赤人の短歌から―」（美夫君志会例会）、平成十八年六月。

○「日本文学における表象―ウグイスの日中比較から―」（東アジア比較文化国際会議大会・復旦大学「上海」）、平成十八年九月。

○「『万葉集』における赤人歌の位置―卷十七の詠春鶯歌から―」（美夫君志会一月研究発表会）、平成十九年一月。

〔その他〕

○「産経新聞」朝刊／奈良版「万葉集と遊ぶ」平成十八年三月十九年一月。

○「新刊紹介／菊池威雄氏著『天平の歌人 大伴家持』」（「美夫君志」第七十三号）、平成十八年十一月。

西地 貴子（平成十八年十月一日着任）

〔その他〕

○万葉古代学研究所第3回共同研究公開シンポジウム「平城京と万葉集」コメンテーター、平成十八年十月。

○「産経新聞」朝刊／奈良版「万葉集と遊ぶ」八五（平成十八年十月三十日付）、・八九（同十二月四日付）。